

尾器の確認により行なった。なお、同定の結果、採集した雄個体がすべて本種であったため、同時に採集された雌個体も本種と同定した。標本は内田・山崎がそれぞれ保管している。

1♂, 千葉県緑区平山町, 1. IX. 2018, 山崎採集, 保管; 1♂ 1♀, 君津市川谷, 2. XI. 2019, 内田採集, 保管。(図1); 1♂ 2♀♀, 君津市怒田, 24. II. 2020, 内田採集, 保管。

平山町では、ヨシ *Phragmites australis* が池全体に繁茂する雨水を貯水するための降雨貯水池である。池内の水深の浅い部分の植物の根際において、タモ網による掬い取りで本種を採集した。本種のほかに、同所的にヒメゲンゴロウ *Rhantus suturalis* (Macleay, 1825), ヒメガムシ *Sternolophus rufipes* (Fabricius, 1792), コガシラミズムシ *Peltodytes intermedius* (Sharp, 1873) 等がみられた。

川谷では、スゲ属 *Carex* やセリ *Oenanthe javanica* 等が優占する水深の浅い湧水由来の湿地である。湿地内を踏査している最中に水中を泳ぐ本種を目視で確認し、タモ網による掬い取りで本種を採集した。本種のほかに、同所的にヒメゲンゴロウ、マメゲンゴロウ *Agabus japonicus* Sharp, 187, オオコオイム

シ *Appasus major* (Esaki, 1934) 等がみられた。

怒田では、ヨシやガマ *Typha latifolia*, スゲ属等が湿地全体に広く繁茂する水深の浅い湧水由来の湿地である。植物の根際をタモ網で掬い取ったところ、本種が得られた。本種のほかに、同所的にクロズマメゲンゴロウ *Agabus conspicuous* Sharp, 1873, マメゲンゴロウ, ヒメゲ

ンゴロウ, ゴマフガムシ *Berosus punctipennis* Harold, 1878, オオコオイムシ等がみられた。

全ての水域において、採集個体以外にも多数のクナシリシジミガムシが確認された。

末筆ではあるが、古旗峻一氏には本種の採集にご協力いただいた。この場をお借りして厚く御礼申し上げる。

引用文献

- 林 成多, 2009. 島根県の水生ガムシ科・ホシザキグリーン財団研究報告, (12): 7-121.
市川市, 2014. 生物多様性いちかわ戦略「人と生きものが自然の中でつながる文化のまち」資料編. <https://www.city.ichikawa.lg.jp/common/000199873.pdf> (2020年5月4日参照).
上手雄貴, 2007. 日本産シジミガムシ属. 昆虫と自然, 42 (2): 12-16.
上手雄貴・森 正人・司村宣祥・松井英司, 2013. 日本産シジミガムシについて. さやばねニューシリーズ, (9): 12-15.
中島 淳・林 成多・石田和男・北野 忠・吉富博之, 2020. 日本の水生昆虫. 351 pp. 文一総合出版, 東京.
中村 涼, 2017. 房総丘陵で採集した注目すべき甲虫類 (3). 房総の昆虫, (59): 40-43.

(内田大貴 188-0011 西東京市田無町 3-10-9
特定非営利活動法人 NPO birth 自然環境マネジメント部)
(山崎 駿 263-8522 千葉県稲毛区弥生町 1-33
千葉大学理学部化学科)

【短報】四国でサツマイモヒサゴトビハムシ採集

サツマイモヒサゴトビハムシ *Chaetocnema confinis* Crotch, 1873 はサツマイモの害虫で(日本応用動物昆虫学会, 2006), その生態と防除は林川・嶺崎ら(2013), 林川ら(2014)で報告されている。また、ヨウサイの食害も報告されている(今坂・石関, 2012; 東京都病害虫防除所, 2012)。

本種の国内記録は田中ら(1990)で、種子島からテンサイトビハムシ *Chaetocnema concinna* (Marsham, 1802) として報告されたのが最初である。その後、Takizawa & Kusigemati (1996) で、種子島と沖永良部島の標本が *Chaetocnema* sp. と報告され、Takizawa (1998) で沖永良部島と徳之島の標本が *Chaetocnema confinis* Crotch, 1873 と報告された後、和名としてサツマイモヒサゴトビハムシが提唱された(南, 2018)。

これら3島のほか、父島、宮崎県南那珂地域、鹿児島県知覧町(現南九州市)、喜界島、請島、与路島、与論島、沖縄島、伊平屋島、野甫島、伊是名島、伊江島、古宇利島、水納島、伊計島、宮城島、浜比嘉島、敷地島、津堅島、久高島、座間味島、粟国島、渡名喜島、久米島、南大東島、宮古島、大神島、来間島、多良間島、



図1. 千葉県産クナシリシジミガムシの雄個体(A)および雄交尾器(B), 中央片側面(C)。

石垣島、竹富島、小浜島、波照間島、西表島、与那国島から報告されている(今坂・石関, 2012; 今坂・祝, 2007; 小濱, 2010; 小濱・安藤, 2018; 宮崎県病害虫防除・肥料検査センター, 2012; 東京都病害虫防除所, 2012; 重藤, 2019, 2020; Shigetoh, 2020; 重藤・吉武, 2018a, b, 2020)。

筆者は本種を四国の高知県で採集したので報告する。

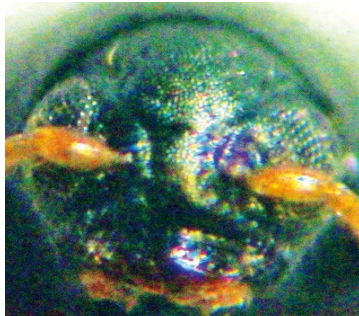
43 ♀♀, 23. X. 2001 (図 1, 2) および 25 ♀♀, 7. X. 2012, 高知県土佐清水市足摺岬; 14 ♀♀, 9. XII. 2003, 土佐清水市足摺岬〜堂ヶ森。いずれも宮内採集, 保管。

サツマイモ畑で採集した。同定は今坂・石関(2012)で, 近似種との区別点として述べられている頭部の形状(図 2)等を用いて行った。また, Takizawa & Kusigemati (1996) と今坂・石関 (2012) は, 本種の単為生殖について述べているが, 採集した個体を調べたところ, 全て雌であった。

本種と同様にサツマイモの害虫で, 南西諸島, 九州から本州の関東地方, 伊豆諸島まで分布を拡大しているヨツモンカメノコハムシ *Laccoptera nepalensis* Boheman, 1855 は, 四国初確認は 2011 年の高知県で(重藤ら, 2020), 本種より 10 年後である。



図 1. サツマイモヒサゴトビハムシ背面。



本報告にあたり, 本種の分布・文献や本報文への助言, 図の修正で, 今坂正一氏, 重藤裕彬氏, 末長晴輝氏, 南雅之氏にお世話になった。厚く御礼申し上げる。

図 2. サツマイモヒサゴトビハムシ頭部。

引用文献

- 林川修二・福田 健・山下 進, 2014. サツマイモトビハムシ (*Chaetocnema confinis* Crotch) の生態と防除 2. 種子島のサツマイモほ場におけるサツマイモトビハムシ幼虫の加害時期. 九病虫研会報, 60: 64-67.
- 林川修二・嶺崎 研・福田 健・水島真一・山下 進, 2013. サツマイモトビハムシ (*Chaetocnema confinis* Crotch) の生態と防除 1. サツマイモトビハムシ幼虫によるサツマイモ塊根の被害. 九病虫研会報, 59: 72-76.
- 今坂正一・石関 博, 2012. サツマイモヒサゴトビハムシのエンサイへの加害, および国内における分布と単為生殖個体群の存在について. さやばねニューシリーズ, (5): 18-21.
- 今坂正一・祝 輝男, 2007. 喜界島で 2007 年に採集した甲虫. Satsuma, (137): 119-129.
- 小濱継雄, 2010. 沖縄県におけるサツマイモの食葉性害虫. 沖縄県農業研究センター報告, (4): 27-31.
- 小濱継雄・安藤緑樹, 2018. 沖縄県におけるサツマイモトビハムシの分布状況とその宿主植物. 沖縄県農業研究センター報告, (12): 43-47.
- 南 雅之, 2018. 日本に侵入したハムシ類. 昆虫と自然, 53 (9): 8-11.
- 宮崎県病害虫防除・肥料検査センター, 2012. 平成 23 年度病害虫発生予察特殊報第 2 号. 2 pp. (<http://www.jppn.ne.jp/miyazaki/10/tokusyu/23nen/h23tokusyu02.pdf>) (2020 年 4 月 27 日アクセス)
- 日本応用動物昆虫学会, 2006. 農林有害動物・昆虫名鑑増補改訂版. 387 pp.
- 重藤裕彬, 2019. 薮地島(沖縄諸島)未記録のハムシ類. 月刊むし, (583): 41-45.
- 重藤裕彬, 2020. 沖縄諸島津堅島において採集されたハムシ類. 月刊むし, (587): 42-45.
- Shigetoh, H., 2020. The leaf beetle fauna (Coleoptera, Chrysomelidae) of Yoron-jima Is., the Amami Isls., Central Ryukyus, Southwestern Japan. Elytra, Tokyo, New Series, 10 (1): 147-164.
- 重藤裕彬・吉武 啓, 2018a. 奄美諸島諸島において冬季に採集されたハムシ類. さやばねニューシリーズ, (29): 17-19.
- 重藤裕彬・吉武 啓, 2018b. 奄美諸島与路島において冬季に採集されたハムシ類. 月刊むし, (568): 34-37.
- 重藤裕彬・吉武 啓, 2020. 大東諸島南大東島で採集されたハムシ類. さやばねニューシリーズ, (38): 43-49.
- 重藤裕彬・末長晴輝・南 雅之・渡部晃平, 2020. ヨツモンカメノコハムシの分布記録および日本国内, 特に琉球列島における分布の現状. ホシザキグリーン財団研究報告, (23): 227-243.
- Takizawa, H., 1998. Notes on Japanese Chrysomelidae (Col.). Part 3. Elytra, Tokyo, 26 (1): 217-222.
- Takizawa, H. & K. Kusigemati, 1996. Notes on Chrysomelidae of the Palau Islands. (Insecta, Coleoptera). Kagoshima Univ. Rec. Center S. Pac., Occasional Papers, (30): 23-25.
- 田中 章・肥後三郎・上妻道紀, 1990. 種子島のサツマイモに発生したテンサイトビハムシについて. 九病虫研会報, 36: 120-122.
- 東京都病害虫防除所, 2012. 平成 24 年度 病害虫発生予察特殊報第 2 号. 2 pp. (http://www.sangyo-rodo.metro.tokyo.jp/nourin/pdf/yosatu/toku/TOK_121023_satsumaimohisago.pdf) (2020 年 4 月 27 日アクセス)

(宮内博至 272-0013 市川市高谷 2-15-23

コーポアイランド I 105 号室)